

■全体の傾向としては、手作り感のある物が多くなっている。実際に手作りの物は、素材自体がテクノロジーを駆使した物が多く「手」と「テクノロジー」の融合として捕えられるものになっている様だ。また、素材としてウールが増えている傾向にある。ファブリックスでは、防炎素材のドレープ性が一段と良くなっている。

手作りの要素があるもの

手作りの物が、年々増えて来ている。ハイテク素材を手で加工する事で魅力的なアイテムに仕上がっている。



凹凸感のある素材

表面に凹凸感のある物が引き続き多い。今年は薄い素材のサッカーボード風の物や、ワッフル調が新鮮。また、刺繍タイプでは従来に無い強い凹凸になっている。



ウール素材

ウール素材が、様々なアイテムで見受けられる。自然素材を取り入れる傾向が強くなっている事が影響している様だ。



オープンワーク

ヒートカットやリボン使いなどのオープンワークが、より大胆になって来ている。ドレープと重ねて使用する事が前提になっている様である。



金属的な素材

金属風の素材は、シワ効果をプラスしている物が多い。金属のカーテンも更に進化。

■ 2010・MAISON&OBJET・傾向その3（パターン）

■全体の傾向としては、パターンの割合が多少減っているイメージ。の中でも丸いフォルムに関する物が、ファブリックス以外でも多く登場している。自然のモチーフイメージの物は水彩タッチが多く使用されている。ロゴ使いで、メッセージ性を強調しているアイテムが特に多くなって来ている。

丸いフォルム

丸いフォルムは、優しさを演出する物が今回の展示会では、多く使用されていた様に感じる。どれも何気なく力が入っていない感じの所が、今っぽい様に思う。



水彩風イメージ

昨年のデジタルPTTに引き続き水彩タッチが多くなって来ている。特に、プレートの水彩タッチはとても新鮮。また、スクリーンPTTでの表現で、色の実行を感じさせるものもあった。



ロゴ使い

文字（ロゴ）を使用したアイテムが、とても多くなっている。メッセージ性を高める効果が期待されている様に感じる。プリント・刺繡・アップリケ・スタンプなど様々な手法が取り入れられている。



クラシカルパターンのアレンジ

クラシカルなモチーフを今風にブランニューしているパターンが目立つ。特に西と東の文化の融合的なイメージを持った物が新鮮な様だ。歴史的または宗教的なストーリーから、モチーフをチョイスしているケースが多い。